

満額回答で職場の奮闘と努力に報いない経営姿勢に対し 2024JR 総連春闘で培った組織力を基礎に新たに立ち向かう中央本部見解

JR 東労組は 2024JR 総連春闘方針にもとづき、私たちの労働実感と生活実感を基礎に、中央本部では 13,000 件を超える組合員・社員の声にもとづき、強い決意をもって 24 春闘をたたかってきた。

中央本部は、3 月 8 日「申 15 号 2024 年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」及び「申 16 号 2024 年度夏季手当に関する申し入れ」第 3 回交渉において、定期昇給（昇給係数 4）の実施、所定昇給額と同一の額及び 4,000 円を加える基本給改定の実施、基本賃金に 6,000 円を加えるエルダー社員の賃金改定の実施、夏季手当については、基準内賃金の 2.7 ヶ月などの早期回答を受けた。ベースアップは会社発足以降、過去最高の回答であったものの現行の人事賃金制度の実施以降、最大の格差となる回答である。また、夏季手当についても営業利益が昨年比 279%増加など、足元の動向も大きく好転しているにもかかわらず僅かな増加であった。さらに、集中回答日を大きく前倒したなかの回答であったにもかかわらず、JR 東労組の要求内容と趣旨から乖離した回答であった。

このような認識のもと、他労組が早期妥結する中であっても、妥結せずに申 19 号「過去最高の働き度と職責を超えて奮闘する職場の努力に報いるベースアップの実施と、夏季手当の支給を求める緊急再申し入れ」を提出し、私たちは最後までたたかい抜いてきた。

会社回答に対して組合員・未加入者からは、「職責の重みを加味して回答と言っているが、職責に関係なく業務量が増加しているのになぜ格差をつけるのか」「物価高に職責もエルダーも関係ないので納得できない」「若手は 10,000 円に届いていない。働き度が増しているのだからみんなに均等に欲しかった」「過去最高の働き度で過去最大の格差であり反対！」「日々の奮闘は職責を大きく超えている！」と怒りの声は増すばかりだ。さらには、「ベア等による基準内賃金の増加により 0.13 ヶ月相当の押上げ効果が生じ、2.83 ヶ月と同等の支給水準」と発表する姿勢には、怒りと共に「会社の回答方法に呆れた」という声まで中央本部に寄せられたが、全くもって同感である。

春闘期間中、職場を訪れた経営幹部は、「今まで以上にボトムアップ型で会社の経営を支えて頂きたい」「これだけ賃上げした。貰った分は貢献して頂くことも意識して欲しい」と述べたそう。これを聞いた社員からは「もつともつと経営を支えろ！」「順風満帆ではない。営業利益が戻っていないから奮起せよ」「馬車馬のように働け」と感じた怒りの声が出されている。だとすれば、過去最高の働き度と職責を超えて奮闘する組合員・社員に「満額回答するべきである！」と強く訴える。

その一方で、回答を受けた社友会の一部会員らは、「私たちの意見はしっかりと考慮していただいたものと受け止めている」「新賃金と夏季手当が同時公表となりましたので生活設計に役立てていきましょう」と“経営のパートナー”としての姿をあらわし、社員の多数意見であるかのように主張している。私たちは「経営への参画意識＝社員化」をおこなっていく経営姿勢を明らかにしながら、あくなき利潤追求にひた走る経営姿勢に「おかしいことはおかしい」と主張し、労働組合として立ち向かい突破していく。

たたかひの過程では青年部が「メッセージ総対話行動」を担い、各地方本部で開催された春闘集会や学習会・レクには 1,000 名を超える仲間が結集しただけではなく、新たな分会組織の結成や協議会運動をつうじて各地方本部の実践に学び、連帯のたたかひをつくりあげることができた。また、「定期昇給とベアの違い」「賃上げと夏季手当の同時議論の狙い」について議論を深めながら、職場からのたたかひによって組織拡大を実現することができたことは大きな成果である。

JR 総連春闘として「統一要求・統一闘争」にこだわり一律 12,000 円を求めてきたなかで、過去最大の格差に対し改めて会社は「合理的な差は格差ではない」との認識を示した。この認識は、JR 東海において新たに提案された「人事・賃金制度の見直し」において、定期昇給に評価が組み込まれることなどを見ても、JR 東日本において“新たな人事賃金制度の改正”や“新たな格差拡大”が狙われていることに対して、私たちは危機感を持たなければならない。

最終的に「緊急再申し入れ」においても要求の前進を勝ち取ることはできなかったが、組織強化・拡大の教訓と今後の課題を明確にし、中央執行委員会は苦渋の判断で妥結することとした。全組合員の皆さん！現場第一としない経営姿勢にさらなる組織強化・拡大で抗し、分断を許さず「労働者意識・組合員意識・仲間意識」を育み、安全で安心して働きやすい職場をめざしていこう！同時に JR バス関東本部、JR バス東北本部、ステーションサービス協議会の仲間と共に要求実現に向けて連帯してたたかおう！そして、職場の奮闘と努力をかえりみない経営姿勢に、これからも立ち向かい突破していこう！

年度末決算やダイヤ改正作業など多忙ななかで、たたかひを支えてくださった全組合員・ご家族、未加入者・OB の皆さんに感謝と御礼を申し上げ、中央執行委員会としての見解とする。

2024年 3月22日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会